



◆保倉川放水路概略ルートについて、ご意見ありがとうございました。

◆第21回関川流域委員会にて、概略ルートは「Bルート(西側ルート)」と決定しました。

第21回関川流域委員会 開催報告

委員会では「Bルートが妥当であると判断」との意見が示され、今後、概略ルートはBルートとして、更に具体的な検討を進めていきます。

- 開催日時： 令和3年3月30日(火)
17時00分～19時00分
開催場所： 上越市市民プラザ 2階 第3会議室
内 容：
●意見募集・住民説明会結果とその対応について
●今後の進め方(案)について



委員会の様子

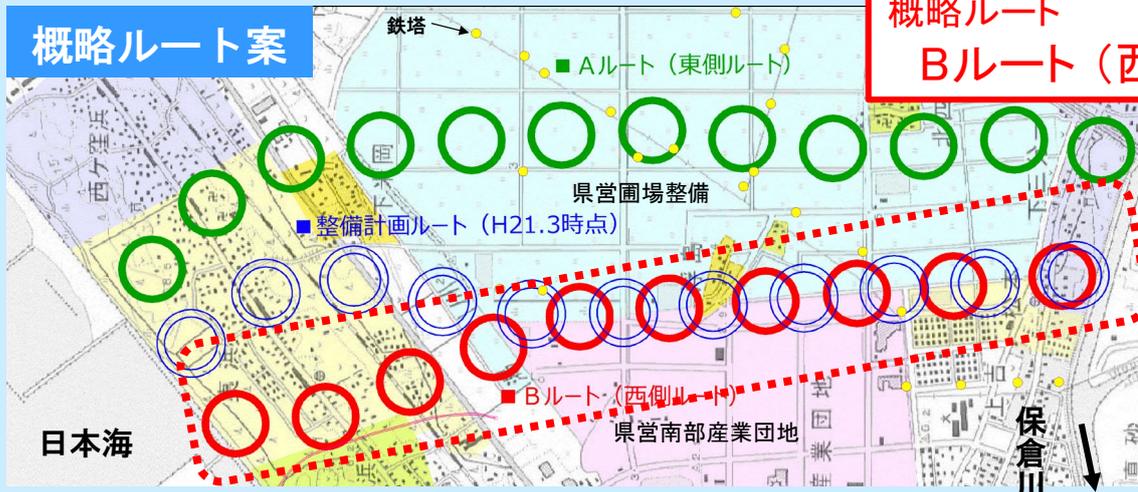


傍聴席の様子

【委員からの主なご意見】

- 一部反対意見があるものの、全体としてBルートの優位性を改めるような意見は無く、Bルート(西側ルート)が妥当と判断できる。
- コミュニティの継続や生業の維持に対し、上越市と連携を図りながら丁寧に対応していくことが重要。
- 保倉川流域の企業も多く、放水路を早く作って欲しいと聞いている。スピード感を持って進めて欲しい。
- L2津波に対するソフト対策での対応についてしっかりと説明し、理解を得ることが重要。
- 他事例を紹介することにより、完成後の放水路をよりイメージしやすくなり、理解を深めることに繋がるのではないか。

概略ルート案



概略ルート

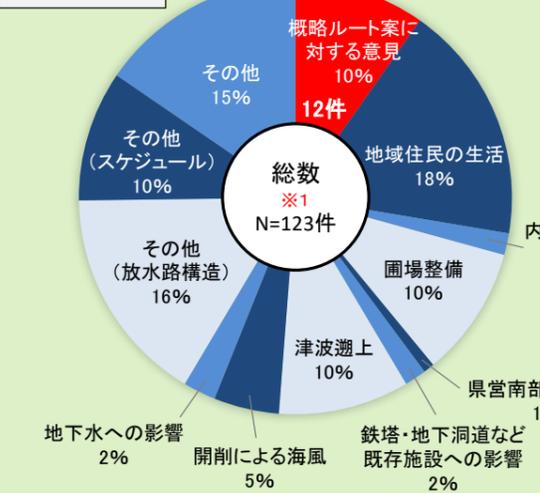
Bルート(西側ルート)決定

→次頁以降、いただいた意見について記載します。

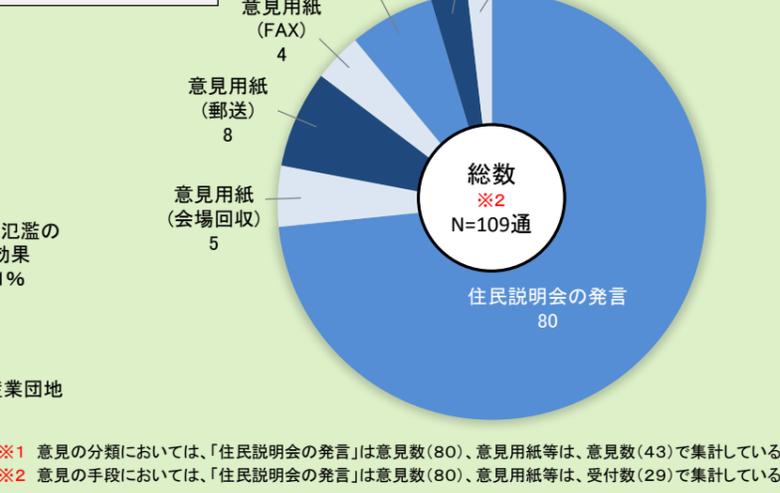
意見募集について

令和3年2月22日(月)～3月28日(日)の約1ヶ月間、事務所ホームページ・資料配付・住民説明会を実施し、意見募集を行いました。109通(意見123件)が寄せられました。

意見の種類



意見の収集手段



※1 意見の種類においては、「住民説明会の発言」は意見数(80)、意見用紙等は、意見数(43)で集計している
 ※2 意見の手段においては、「住民説明会の発言」は意見数(80)、意見用紙等は、受付数(29)で集計している

住民説明会実施報告

令和3年2月22日(月)～3月25日(木)までの間、5地区において住民説明会を開催しました。全会場合わせて237名の参加者があり、多くの意見・質問をいただきました。

地区	日時	場所	参加人数
夷浜地区	2/22(月) 18:30～	八千浦小学校体育館	123名
浮島地区	3/4(木) 19:00～	町内会館(四ツ浮会館)	12名
八千浦地区	3/12(金) 19:00～	八千浦交流館はまぐみ	33名
下三分一地区	3/14(日) 9:30～	下三分一公民館(徳専寺)	28名
南川最寄地区	3/25(木) 19:00～	頸城公民館南川分館	41名



夷浜地区(2/22)



南川最寄地区(3/25)

意見は「概略ルート案に対する意見」を募集しましたが、概略ルート案に対する意見は12件(10%)と少なく、概略ルート案比較表の評価項目に新たに追加する項目や評価の相違点を指摘するようなご意見はございませんでした。今後もさらに詳細な情報をご提供するとともに、地域の皆様の意見を伺う機会を設けて、ご理解が深まるよう努めて参ります。

意見について

概略ルート案に対する意見

- 【支持する】 ◇5件(地域の分断も少なく、コストも抑えられると思われる)
- 【支持しない】 ◇2件(Bルートの特長があまりないように思う。津波と塩害対策を考えると高速道路の西側がよい。)
- 【整備計画ルートをサポートする】 ◇2件(土地を活用してほしい。神社仏閣は動かさないでほしい。)
- 【その他】 ◇3件(どのルートになるにしても早く決めてほしい。地下洞道に近いが大丈夫か。)

A. 概略ルート(案)比較表の評価項目に新たに追加する項目や評価の相違点を指摘するようなご意見はございませんでした。概略ルート決定以降もさらに詳細な情報をご提供するとともに、ご発言に至るお考えを伺う機会を設けて、ご理解が深まるよう努めて参ります。

地域住民の生活

【今後の生活について】

- ◇全国で保倉川放水路と似た事例があれば、完成期間や橋の数を示してほしい。 ◇橋はどこに何ヶ所設置するのか。
- ◇今後の生活設計もあるため、ルートが決まったらより具体的に示してほしい。また、スピード感を持って進めてほしい。
- ◇代替地、補償等は、誠意ある対応をお願いしたい。
- ◇避難場所の対策、通学路の安全確保、住みやすい地区づくりについての要望。

A. 放水路による住まいを取り巻く生活環境については、関係機関と連携・調整を図りながら、機能の保持・回復について丁寧に対応を行います。

【住居が影響するかの確認、家屋移転・農地影響、補償について】

- ◇早期にルートの位置を具体的に公表してほしい。土地がかかるか知りたい。移転先を示してほしい。
- ◇現況の貯水池利用、潟川改修による洪水対策により住宅地に影響をなくしてほしい。
- ◇住居移転の問題はもちろんだが、畑など農地の今後の予定が立たなくて困っているので考えて欲しい。
- ◇家屋移転となった場合の補償はどうなるのか。
- ◇津波の想定をしているが、もし万が一さらに上回ったものが来た場合の補償はされるのか。
- ◇塩害、JRの鉄橋の騒音被害などデメリットしかない気がするが、それによる土地の資産価値が下がる。この地域に治水対策を押し付けることについてもどう考えているのか。

A. 事業に必要な用地については、概略ルート決定後に測量や詳細な設計を実施したうえで、なるべく速やかに地域のみなさまに情報提供できるよう努めます。なお移転先のご希望などについても関係機関と調整しながら丁寧に対応させて頂く予定です。

保倉川放水路は、豪雨等による浸水被害の軽減やそれによる地域の産業の維持・発展に寄与するなど、流域全体の治水対策のなかでも重要な位置付けであることをご理解して頂けるよう努力して参ります。

内水氾濫の効果

- ◇この地域では大きな台風が来ると用水が溢れるといったことが何度も起きている。内水を排除するポンプは放水路ができれば必ず設置してほしい。地域の内水軽減の恩恵がある前提でないと協力できない。
- ◇大雨が降るたびに浸水しているので早く完成させてほしい。

A. 治水上の効果は最大限発揮でき、日常的な利用にもできるだけ支障が出ないよう放水路の形状等を検討して参ります。

圃場への影響

【用排水路について】

◇放水路と交差する用排水路の処理計画を明確にしてほしい。排水路を放水路の川底に通す(サイフォン)計画はありえない。

A. 現況の営農に支障をきたさないよう水利実態について関係するみなさまと確認するとともに、放水路事業によって機能が低下する施設等については、代替施設の検討を行うなど、関係機関と調整のうえ地域のみなさまとご相談しながら進めて参ります。

【海水による影響について】

- ◇放水路が海水で満たされ、常時は固定堰で保倉川の水が供給されないことで、田への影響や悪臭が懸念される
- ◇台風や津波で、海水が遡上すると田んぼが永久にだめになる不安がある。放水路内に海水を入れないでほしい。塩害の対策をして欲しい。
- ◇矢板は年数が経つと錆びて、塩水が河岸に浸透する恐れがある。

A. 塩水による営農への影響が無いよう対応を考えているところですが、矢板等の機能低下については、定期的に監視するとともに、適切な管理で万全な対応となるよう十分配慮して参ります。

産業団地、鉄塔・地下洞道など既存施設への影響

- ◇放水路Bルートは産業団地に影響を及ぼすのか。 ◇火力発電・地下洞道・鉄塔への影響はないか。
- ◇放水路河口部に導流堤は設置しないのか。突堤に影響するか心配である。

A. 放水路の形状等に関する詳細な検討を進め、重要な施設への影響を把握するとともに、当該施設の安定が損なわれることが無いよう施設管理者と調整を図りながら検討を進めて参ります。

津波遡上

- ◇津波に関しL1とはどのような規模の想定なのか。 L2 津波に対してのシミュレーションはしているのか。
- ◇L1 津波を超える規模の津波が来た場合、放水路から溢れることはあるのか。また、その場合の対策はあるのか。
- ◇放水路を作ったことにより生じるリスク(津波の遡上)への対応策を示してほしい。
- ◇河口部には津波対策の施設(防潮堤など)を設置してほしい。津波を考慮した堤防高さ設計としてほしい。
- ◇活断層と地震の関係を研究している研究者から、どんなに大きい防潮堤を設置しても津波には耐えきれないと聞いた。地域を守るために土地は売らないし、放水路は絶対反対。

A. L1津波とは、数十年から百数十年に1度程度発生する地震を想定しており、既往地震の中で関川河口部が最大津波遡上高となる新潟地震を想定しており、河口部で約1.1mの津波を想定しているものです。
L2津波に対しては、概略ルート決定後、シミュレーションを実施し、ソフト面を含めて関係機関と調整しながら対応を検討して参ります。

開削による海風、地下水への影響

- ◇放水路を作ったことにより生じるリスク(海からの強風、水路への転落等)への対応策はあるのか。
- ◇河口部が斜めとなることで、冬季の波浪が放水路に侵入した際の影響はどうなるのか。河口閉塞は大丈夫か。
- ◇きれいな地下水(4m程度井戸)を使用している。放水路により地下水が分断されることで、影響はないのか。
- ◇放水路の整備後もモニタリング等を行い、整備案とのデータの剥離や検証を要望します。

A. 強風や波浪によるお住まいや営農への影響についても定量的に計測や予測を行い、必要に応じて軽減策を提案し合意をいただきながら進めて参ります。また影響が懸念される場合は計器類を設置し、放水路事業との関連の有無を判断するとともに当該事業による影響と判断された場合は、すみやかに改善して参ります。

その他(放水路構造)

- ◇放水路の諸元(水路幅、堤防を含めた幅、勾配、掘削の深さ、最大水位、地盤高との兼ね合い、用地幅はどれくらい確保するか等)をもっと具体的に知りたい。放水路分派点は固定堰で確定なのか。河口部に堰を設置しないのか。最も低い箇所では海抜何mとなるか。
- ◇矢板護岸は腐食が心配(他河川で矢板がさびてボロボロになっている)
- ◇普段は保倉川の水を放水路に流さない計画はなぜか。
- ◇河口堰、水門の設置、排水ポンプの設置、橋設置を要望する。放水路内の堤防のコンクリート化を要望する。
- ◇最大の200m幅で放水路が完成すると、数軒しか残らず町内として成り立たなくなる。幅は狭くして欲しい。

A.概略ルート決定後、放水路構造の設計について維持管理の観点から考慮しながら進めて参ります。また、その進捗状況についても公表できる段階で皆様にお示しするとともに、地域コミュニティ活動への支障を来さないか地域のみなさまや関係機関とご相談しながら行う予定です。あわせてまちづくりや放水路空間の利用などについても、地域のみなさまとお話をしながら進めて参ります。

その他(スケジュール)

- ◇いつルート案が決まるのか。また、住民が決定ルートを知ることができるのはいつになるのか。
- ◇工事はいつするのか。国・県・市はどのような仕事をするのか。放水路掘削までの事業実施手順を教えてください。
- ◇放水路完成までのスケジュール(家屋移転、道路、線路移設の工程なども含めて)を知りたい。用地買収はいつ頃なのか。放水路の完成はいつになるのか。◇将来設計の目途が立ちにくいというのが一番の不安。多少の変更が生じることは仕方のないことだと思うので、より早く大きなスケジュールを示していただくことにより具体化していただきたい。

A.事業のスケジュールについては、今回ルートを1つに絞り込んだのち放水路やまちづくりを含めた詳細な検討を行ったうえで、必要な用地範囲や施工方法、手順などを検討して参ります。地域のみなさまのご不安に対してできるだけ早く応えられるよう段階的に情報提供できるよう進めて参ります。

放水路事業の賛成意見・反対意見

- 【賛成意見】**
 - ◇放水路は必要であると思う。◇放水路事業については賛成であるので早く進めて欲しい。
 - ◇河川整備が不十分であり、洪水の心配があるため分水する案は賛成である。
- 【反対意見】**
 - ◇A・Bルートの条件比較が異なるのでやり直すこと。海へまっすぐでない洪水の危険が増加するので、Bルートは廃棄すること。町内分断は橋で解消できるので整備計画ルートを進めること。環境悪化は目に見えるので放水路は作らないのが一番。流域委員会で決定し、それで終わりではなく、一人でも反対がいれば計画は断念すること。

A.地域の皆様との合意形成を基本に、できるだけ早く事業を進めて参ります。保倉川放水路事業については、反対されている方々もいらっしゃることに留意しながらご理解が深まるよう引き続き丁寧にご説明して参ります。

その他

【まちづくり・地域振興について】

- ◇ルート決定後、地域の分断への対策としてまちづくりについて検討し示してほしい。まちづくり検討に係る組織づくりも必要である。
- ◇放水路は災害対策施設としての役割以外にも、地域活性化のための発展性がある。住民と密に情報共有して頂き進めて欲しい。
- ◇放水路事業に伴う振興策はどのように考えているのか。海水遡上による釣り堀としての利用を期待している。
- ◇放水路によって生じる地域の分断への対策を示してほしい。

A.まちづくり・地域振興については、ハード対策の他ソフト対策を含めて地域のご意見をお聞きしながら検討していくことが、非常に重要であると認識しております。地域のみなさまとご意見を交わしながら国、県、市と連携して取り組んで参ります。

【維持管理について】

- ◇放水路内の土砂堆砂はどうするのか。保倉川河道内で樹木が生い茂っている状況を見ると放水路もそうならないか心配。せっかく作るのだから、維持管理は一元化してしっかりと行って欲しい。

A.保倉川放水路の施設管理については、完成後も適切に管理することとしております。なお放水路空間の利用では、管理分担を決めて適切に行うよう努めて参ります。

【事業要望】

- ◇温暖化の影響もあるため、別の方法(ポンプ排水等)も考えたらどうか。◇潟川の改修工事を並行してぜひやってほしい。

A.温暖化の影響に関する検討を行ったうえで、流域の治水安全度を上げるため、関係機関と連携し、その対策や実施時期などについて調整して参ります。

【説明会について等】

- ◇住民説明会は土日にするべきでないか。住民に参加してほしいと言っているがこの時間では参加しづらい。参加しやすい日時として欲しい。◇説明会資料は町内へ事前に配布を行い周知してほしい。◇わかりやすい説明をして欲しい。
- ◇放水路事業は長い年月を要するため、国・県の方々とは異動時に私達と交わしたことはしっかりと引き継ぐようにして欲しい。

A.地域のみなさまのご意見をお聞きしながら、よりわかりやすい説明や参加しやすい時期について調整し、意思疎通をしっかりと図って保倉川放水路の検討を進めて参ります。

【完成までの対策】

- ◇20年、30年先の安全も大事だが、それまでに洪水が起きたらどうするのか。何か対策を進めているのか。

A.放水路完成までには時間を要することから、施工期間中の被害軽減効果の発現方策についても検討を進めるとともに、避難行動に係る啓発等ソフト対策についても取り組んで参ります。



国土交通省

高田かわこく
河川国道事務所

担当：
調査第一課

〒943-0847 新潟県上越市南新町3番56号
TEL 025-521-4540 FAX 025-522-3866
メール takada-river@hrr.mlit.go.jp